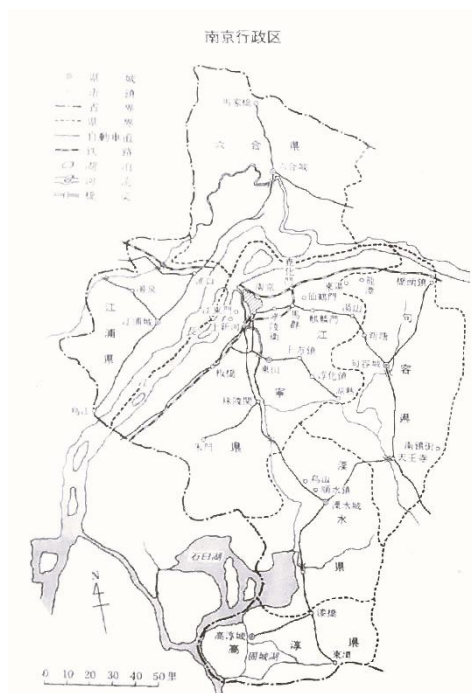


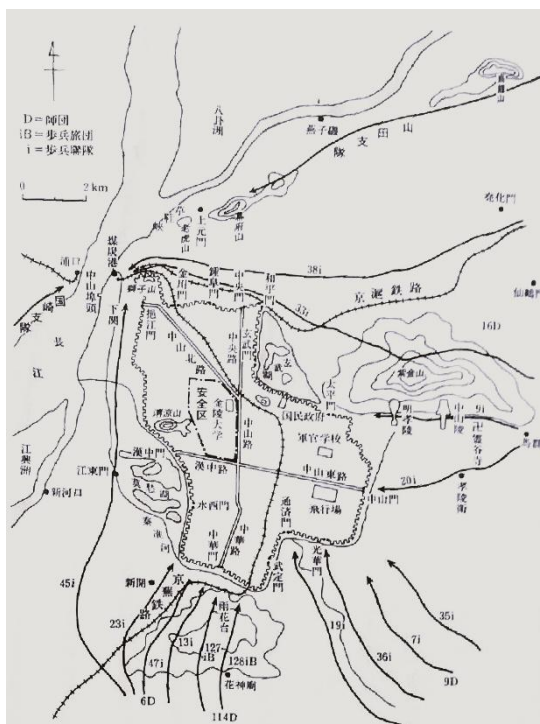
南京戦区の県城と村から始まった 虐殺・略奪・放火・強姦

南京行政区



河富雄編『南京大残虐事件資料集・英文資料編』（青木書店、1985）より

南京城侵攻図



南京特別市は、南京城壁内とその周辺地域からなる南京城区と、南京特別市に属する近郊県城と村を合わせた近郊区とからなる。南京特別市の行政区には、六合・江浦・江寧・漂水・句容・高淳の6県がふくまれていました。これら6県には当時150万人が暮らしていました。

1937年12月上旬、南京攻略戦が開始されたときに、近郊区には100万人以上の住民と難民、南京城区には40～50万の市民と難民が残留していたと推測されます。安全区と言われた南京難民区には最大25万人が避難しました。これらの膨大な中国民衆が、総勢約20万にもたった中支那方面軍の波状進軍による包囲殲滅戦に巻き込まれ莫大な犠牲を被りました。

(図『ドイツ外交官から見た南京事件』大月書店)

百人斬り(1937年12月13日)



(図 毎日新聞社)

終戦後、この両名は、南京戦犯審判軍事法廷で有罪判決を受け、処刑される。

焼かれた死体



(写真『写真集・南京大虐殺』エルビス)

(写真出典 共同通信)